



①フクイラプトルの恐竜モニュメント滑り台
 ②上空から見た道の駅「恐竜溪谷かつやま」
 ③家族連れが気持ちよく過ごせる、道の駅裏の親水広場
 ④お土産物のほか、生産者が丹精込めた自慢の農林水産物も人気

勝山の魅力 つめ込もう

道の駅で 地域を元気に！



道の駅「恐竜溪谷かつやま」がオープン

市内にも人の流れ

県立恐竜博物館が、予約・入替制を導入して再開したこともあり、かつやま恐竜の森内で行っている恐竜化石発掘体験やかつやまディノパークの利用者も増えてきました。また、6月19日から県境をまたぐ移動が全面的に解禁となり、市内でも県内外からの人の流れが見られるようになりました。

そして、6月20日には、道の駅「恐竜溪谷かつやま」がオープンし、市民をはじめ、県内外からも多くの観光客が訪れました。

永平寺町から友達連れで来られた主婦の方は「買い物物のついでに寄りました。いろいろな品物があり、また来てみたい」と話していました。



また、お子さんと親水広場で遊んでいた市内在住のママさんからは「子どもと遊べる場所が増えてよかったです。おいしそうな食事もあった。また利用したいです」と喜びの声が聞かれました。

人の流れはさらに加速 感染症対策がカギ

7月14日からは県立恐竜博物館が本格オープンするほか、国が行う観光需要喚起策「GOTOキャンペーン」が控えるなど、人の流れはさらに加速していくことが予想されます。

人と人との交流が増えていけば、新型コロナウイルス感染症の可能性はどうしても高くなっていきます。

新型コロナウイルスのある中で、勝山市版「新しい生活様式」と施設使用基準をしっかり守っていくことが、市民の皆さま自身を守ることに繋がります。

道の駅登録証を伝達



嶋田所長(写真右)から登録証を受け取る山岸市長

6月20日、道の駅のオープンに先立ち、同駅内で関係者による道の駅完成の集いが開かれました。

冒頭の道の駅登録証伝達式では、国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所の嶋田博文所長から、山岸市長が登録証を受け取りました。

山岸市長あいさつ要旨

新型コロナウイルス蔓延による人の移動自粛要請で3週間遅れのオープンとなりましたが、結果として恐竜博物館

の再開、移動自粛緩和のタイミングとなったことは大変喜ばしく思います。

市内各地域の商品が、道の駅という大きなステージでデビューすることは生産者・消費者ともにメリットがあります。

この道の駅「恐竜溪谷かつやま」が新型コロナウイルス後の、新しい局面にうまく適合して、勝山市の新名所となって、人気を呼び、千客万来となることを祈念しています。